



日本電子出版協会
Japan Electronic Publishing Association

コロナ禍における出版 関連各社の状況調査

一般社団法人日本電子出版協会
ビジネス研究委員会

アンケート期間：2021年1月28日～2021年2月16日

アンケート結果について

新型コロナウイルス感染が猛威を振るいはじめて、すでに1年以上が過ぎていきます。変異種も出てきており、まだまだ予断を許さない状況です。JEPAビジネス研究委員会では、新型コロナウイルス（以下、コロナと略します）感染拡大の影響下で『出版を止めるな！』というテーマにおいて、出版にかかわる企業各社が現在どのような状況に置かれているのかを知りたいと考え、アンケートを2021年1月28日～2021年2月16日の期間で、実施致しました。

アンケート結果について分析ができましたので、広く皆様と共有し、出版・出版関連企業のコロナ対策の一助として役立てたいと思っております。

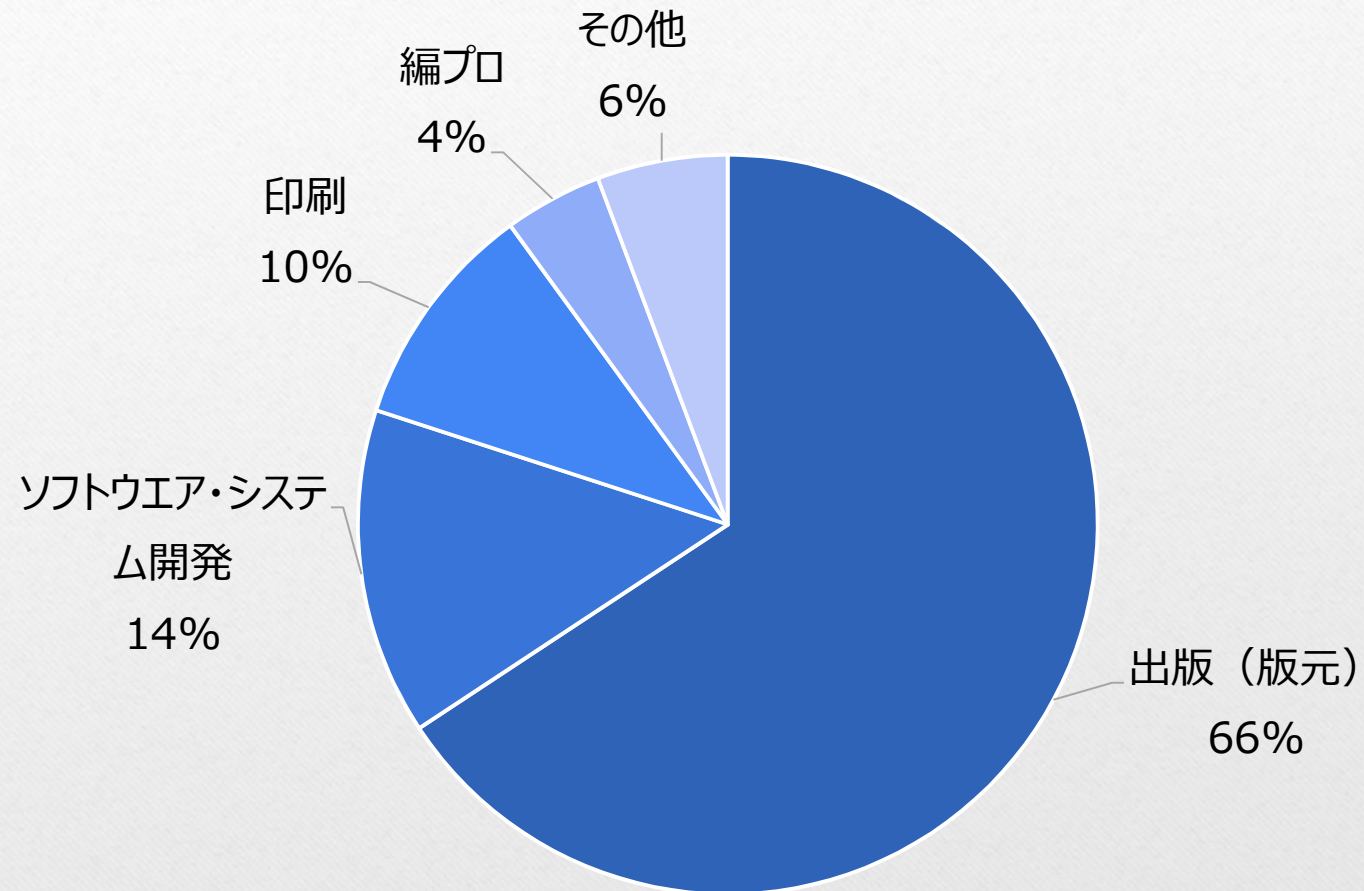
アンケートに協力頂きました皆様に御礼を申し上げます。またアンケート結果の公表が遅れましたこと深くお詫び申し上げます。

アンケート質問項目

- Q1. あなたの業種をお知らせください。
- Q2. コロナの拡大はあなたの会社に影響をおよぼしていますか？
- Q3. Q2で「影響あり」とお答えした方にお聞きします。どんな影響がありましたか？
- Q4. 貴社にとってコロナの拡大は「業務のデジタル化」を進めるきっかけになりましたか？
- Q5. 貴社にとってコロナが「コンテンツのデジタル化」を進めるきっかけになりましたか？
- Q6. Q4とQ5で進まなかったと回答した方に質問します。貴社で、デジタル化を阻害する要因は何ですか？
- Q7. コロナ感染が拡大する状況下で、どのような業務のデジタル化が有効だと思いますか？
- Q8. デジタルコンテンツ関係の2020年4月～9月の売上の増減について、昨年と同じ時期（2019年4月～9月）の売上を100%とするとどのようになりましたか。
- Q9. 2021年度(2021年4月～2022年3月)の売上予想について、2020年度と比較してどのようになると予想しますか。あなたが感じている比率で構いません。
- Q10. 現在の売り上げのうち、デジタルコンテンツ（電子書籍も含む）の占める割合は何%程度ですか？
- Q11. 2021年度(2021年4月～2022年3月)の売上予想について、デジタルの全体における比率を教えてください。
- Q12. コロナ感染拡大への対策として行ったことのうち、効果的だったこと、経営に良い影響を与えたことは何ですか？
- Q13. あなたは、コロナの拡大を防ぐために、在宅勤務、リモートワークを実施しましたか？
- Q14. Q13で「実施している」、「実施したが今はしていない」を選択された方にお尋ねします。
いつから実施されましたか？
- Q15. Q13で「実施している」、「実施したが今はしていない」を選択された方にお尋ねします。リモートワーク率はどれほどでしたか（社員の何%ほど実施されましたか）
- Q16. Q13で「実施している」、「実施したが今はしていない」を選択された方にお尋ねします。リモートワークを実施して、よかったと感じた点、困った点をそれぞれお書きください（双方、どちらかでも構いません）
- Q17. あなたの会社では、政府の支援は利用しましたか？
- Q18. Q17で「利用した」を選択された方にお尋ねします。具体的に利用した支援策をお書きください。
例：持続化給付金、雇用調整助成金、テレワーク助成金、など
- Q19. コロナ感染拡大により、あなたが業務上最も課題と思うことは何ですか？ 具体的にお願いいたします。
（複数選択）
- Q20. 今のコロナ感染による事業の影響は、いつ終息すると思われますか。

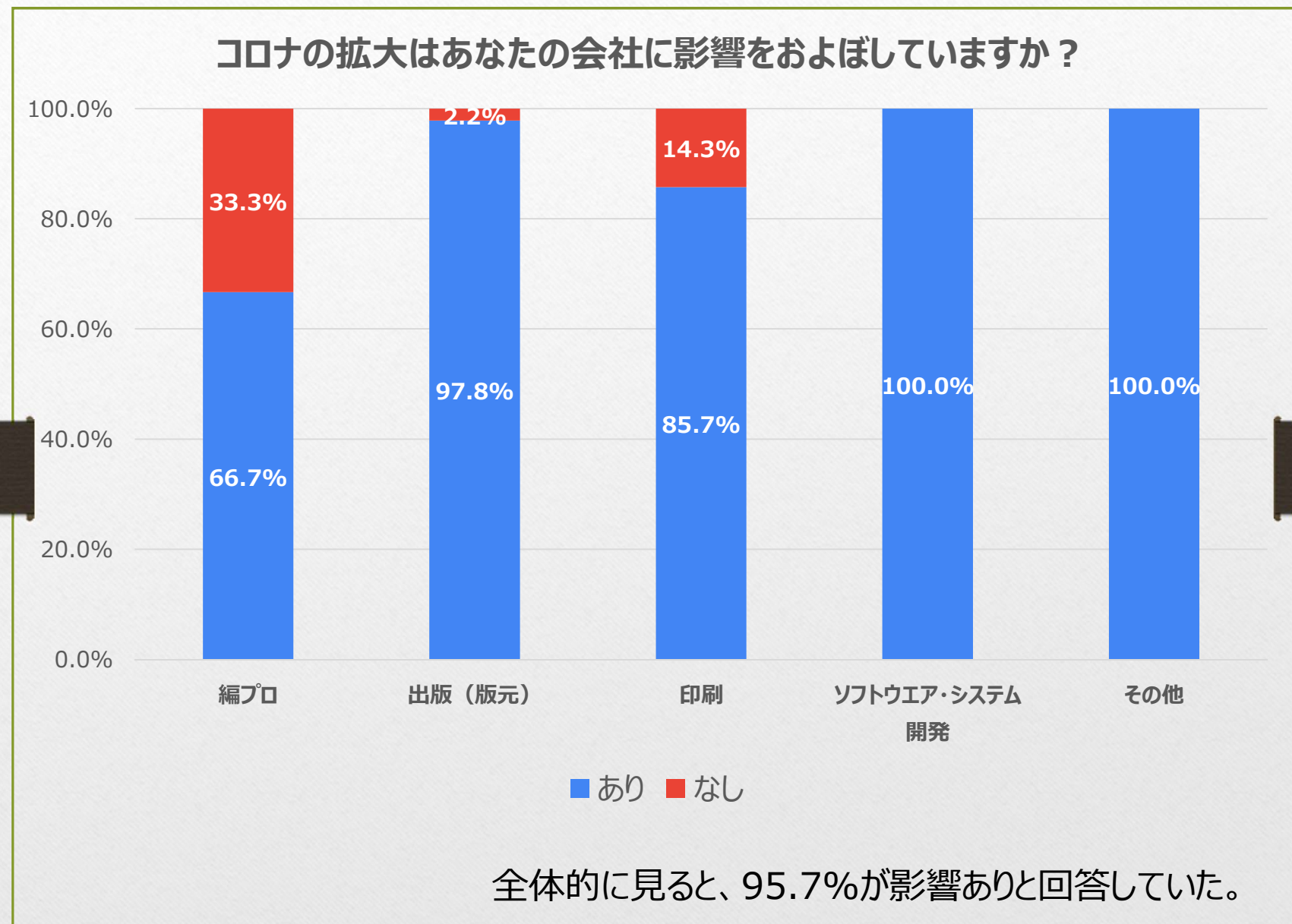
Q1

アンケートに回答頂いた業種の割合



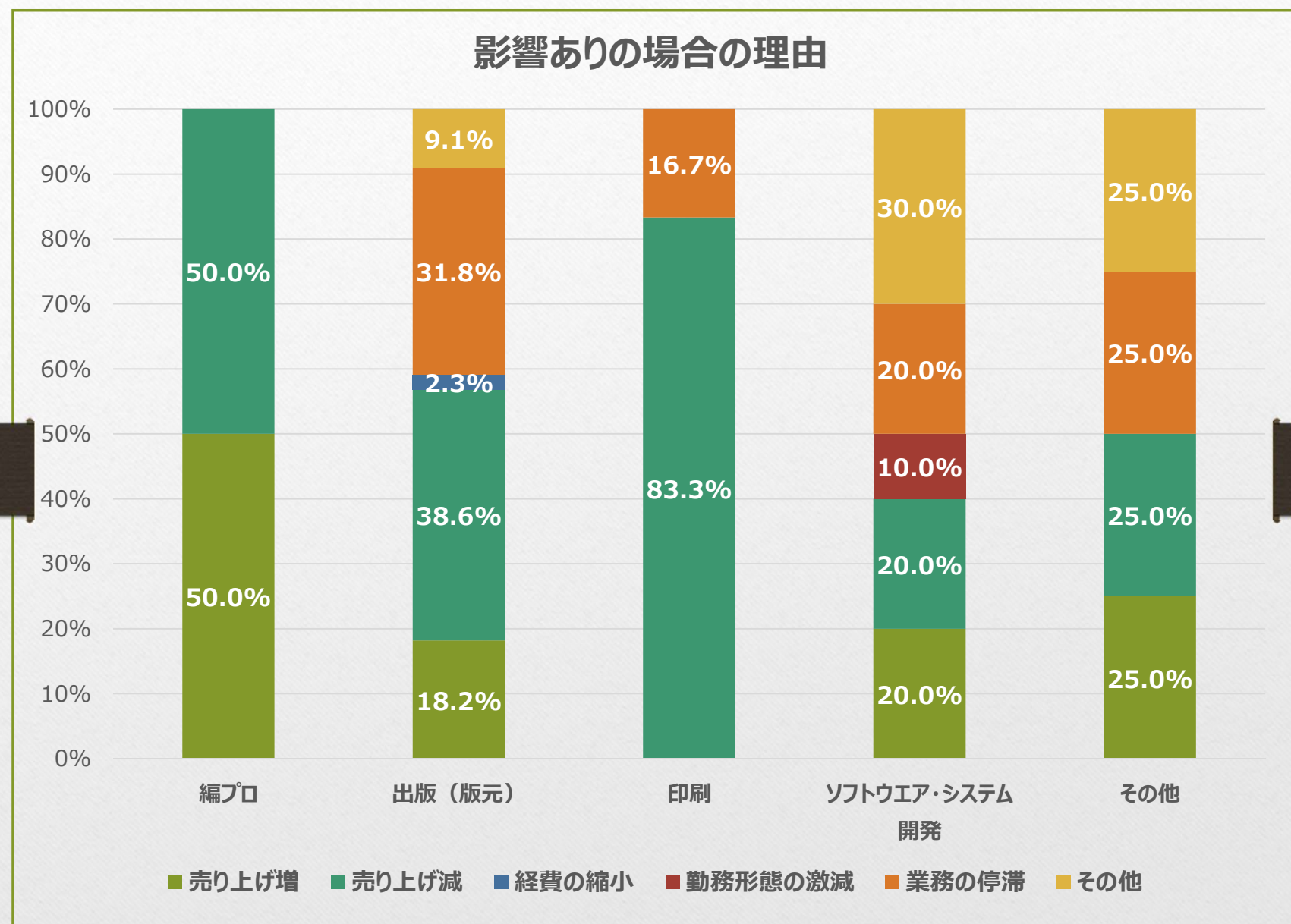
n=70

Q2



n=70

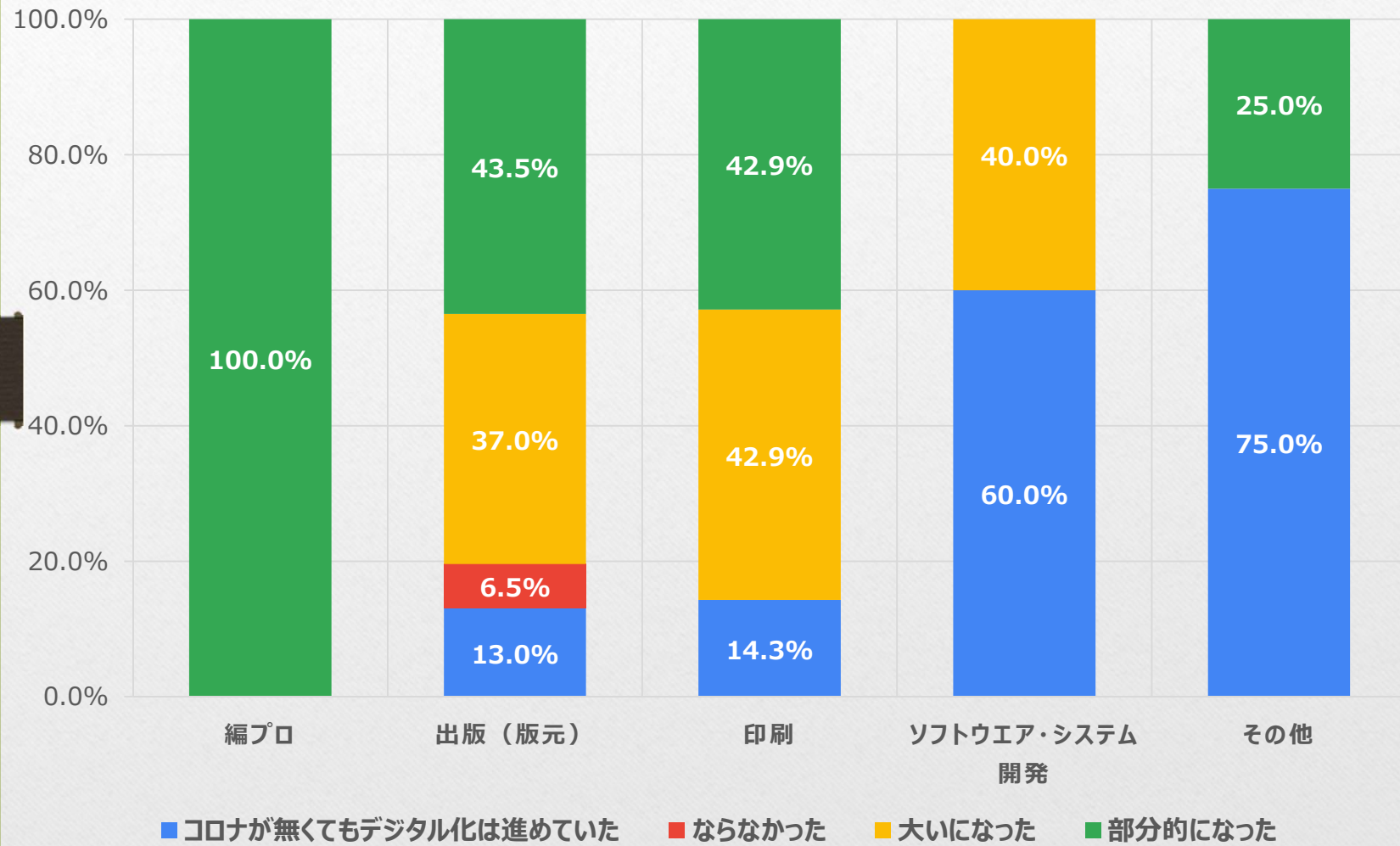
Q3



n=70

Q4

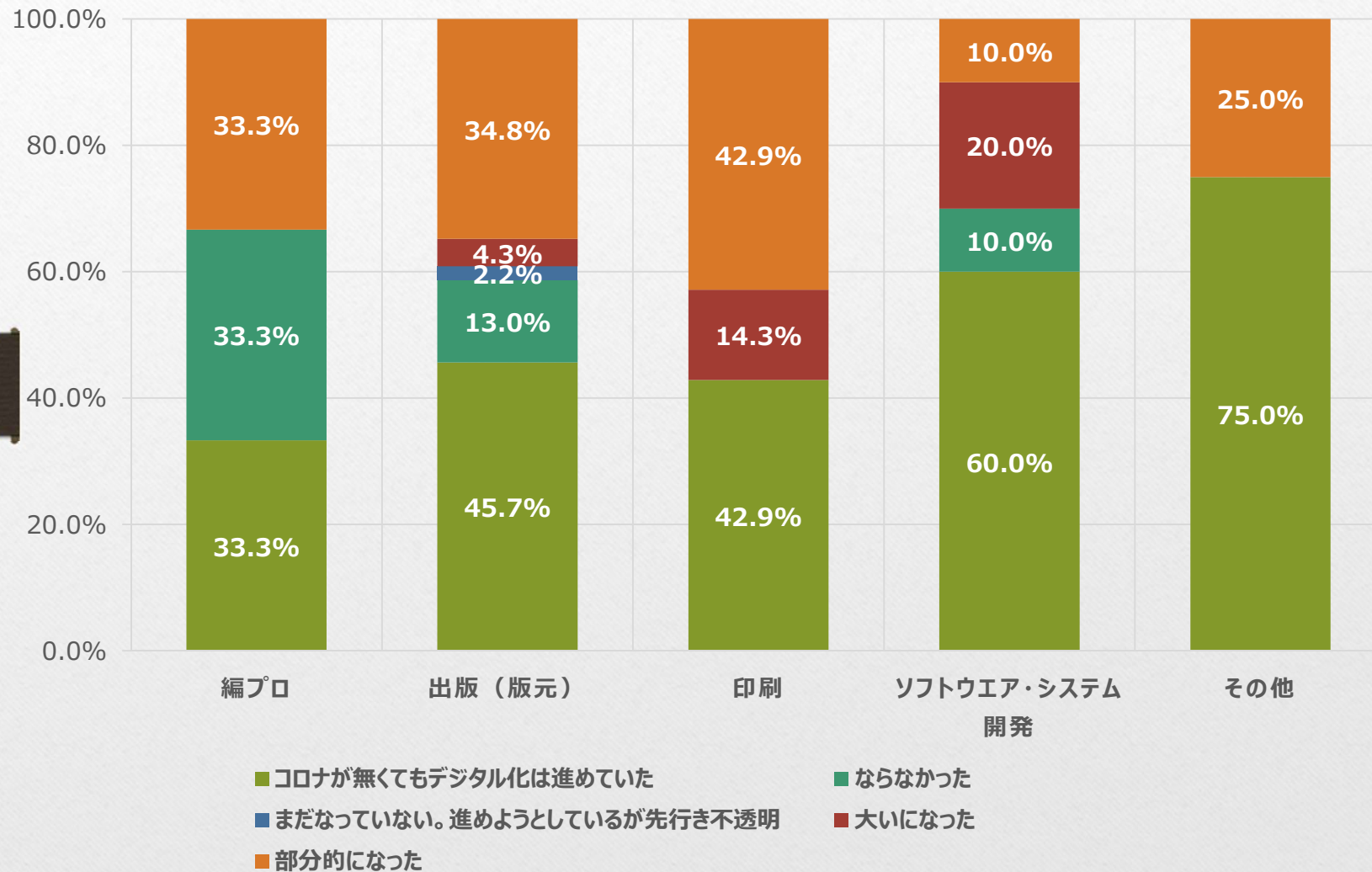
貴社にとってコロナの拡大は「業務のデジタル化」を
進めるきっかけになりましたか？



n=70

Q5

貴社にとってコロナが「コンテンツのデジタル化」を進めるきっかけになりましたか？



n=70

Q4とQ5で進まなかったと回答した方に質問します。貴社で、デジタル化を阻害する要因は何ですか？

- アナログ作業必修作業がネックになっている。
- イベント需要減少
- コンテンツをデジタル化にかかる費用。
- 会社の体質、経営層・管理職の考え方
- 経営者の「でなければならない」という意識と、デジタル化に対応できない高齢者
- 顧客のデジタル化が進んでいない
- 紙ベースでの作業工程への固執
- 社風
- 知識、組織、日常
- 電話とFAX

コロナ感染が拡大する状況下で、どのような業務のデジタル化が有効だと思われますか？
(自由記述)

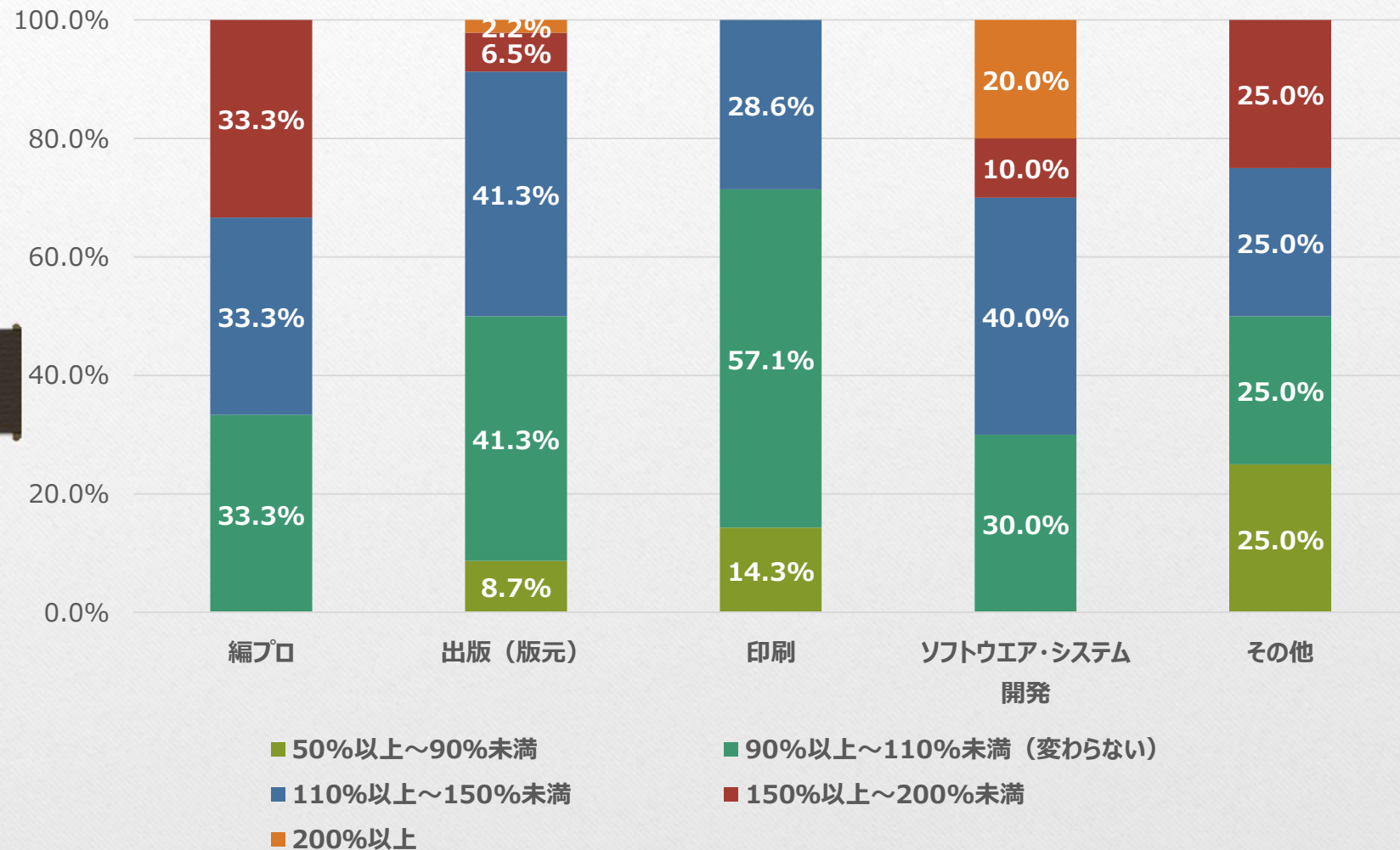


A word cloud featuring various terms related to digital business transformation. The most prominent words are 'データ共有' (Data Sharing) in orange, '総務業務等' (General Affairs Business, etc.) in blue, and 'オンライン会議' (Online Meeting) in light blue. Other smaller words include 'VPN', '印刷しない' (Don't print), '有効なものはない' (There are no effective ones), 'FAX転送' (FAX transfer), 'DX化' (DXification), 'YouTube', and 'リモート' (Remote).

業務のデジタル化において、グループウェア導入等を含む押印業務等の総務業務は40.2%と最も多く、次にオンライン会議の25.8%、データ共有が21.6%の順となった。なお、回答頂いたキーワードの表現の揺れは統計処理上、概念が同じものは同じ用語で集計した。

Q8

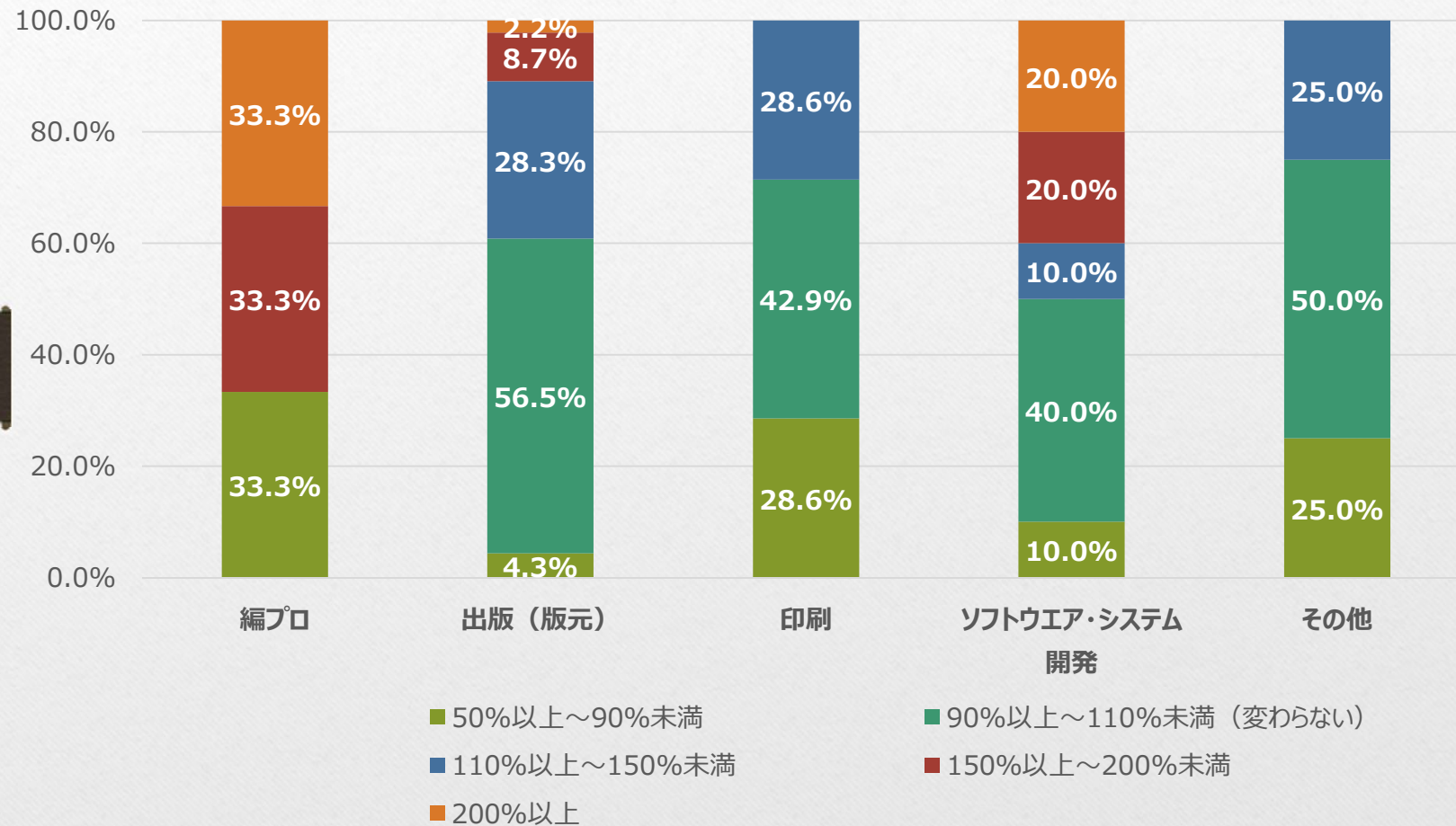
デジタルコンテンツ関係の2020年4月～9月の売上の増減について
(2019年の同じ時期の売上を100%)



n=70

Q9

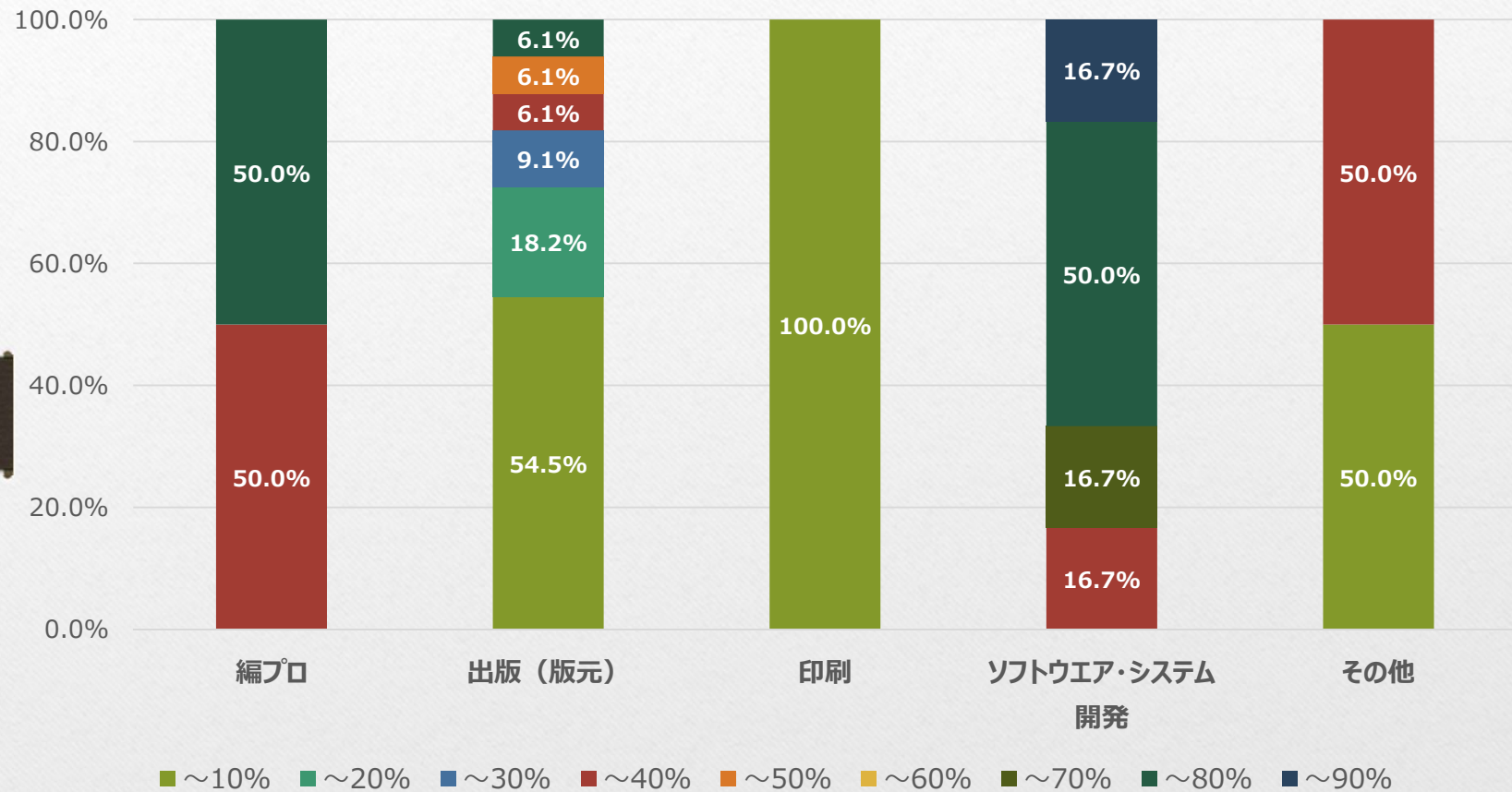
2021年度(2021年4月～2022年3月)の売上予想について (2020年度の売上を100%)



n=70

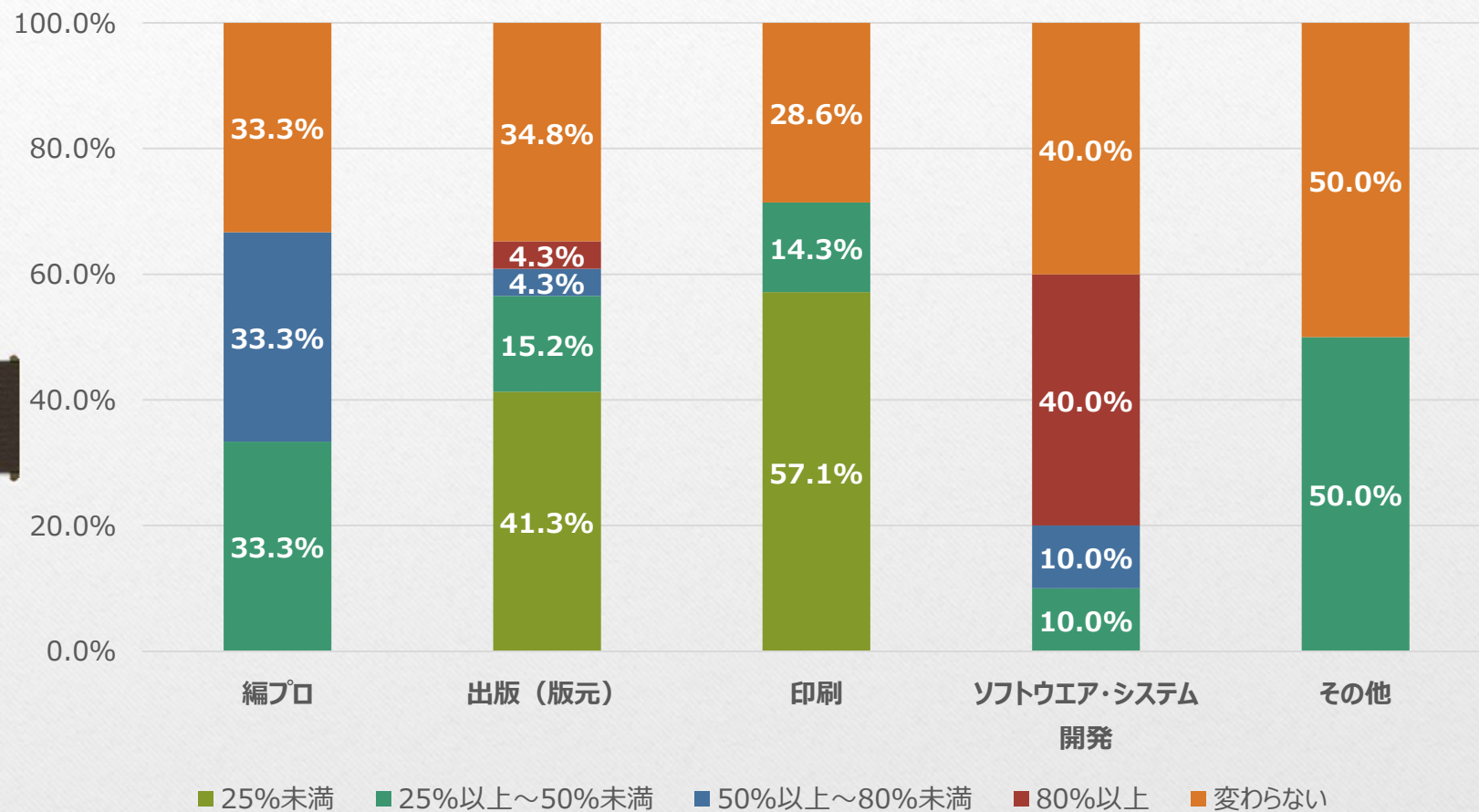
Q10

現在の売り上げのうち、デジタルコンテンツ（電子書籍も含む）の占める割合は
何%程度ですか？ 関係者のみご回答ください。



Q11

2021年度(2021年4月～2022年3月)の売上予想について、
デジタルの全体における比率



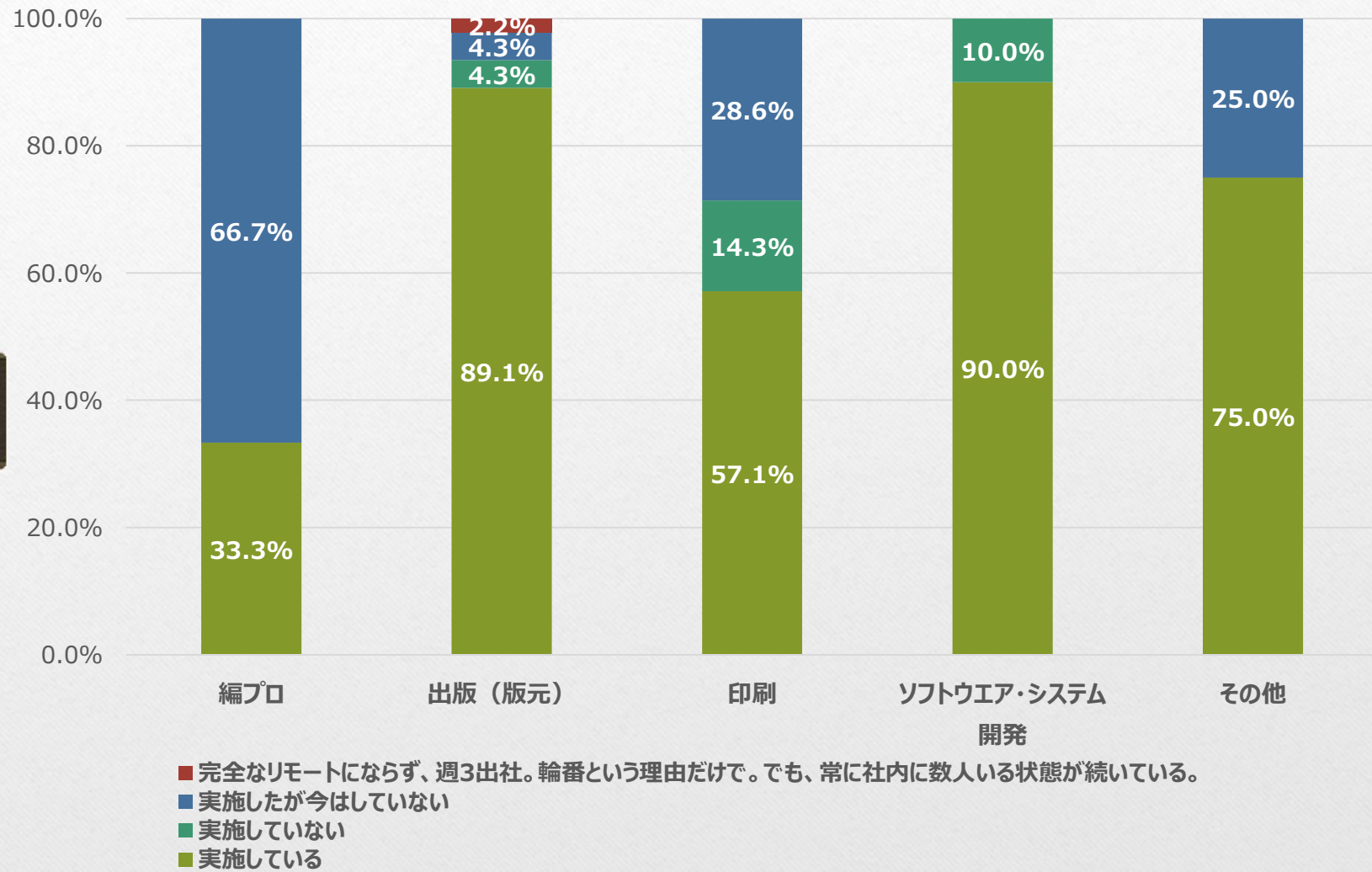
n=70

コロナ感染拡大への対策として行ったことのうち、効果的だったこと、経営に良い影響を与えたことは何ですか？（具体的に記載）

期間限定のコンテンツ無料公開施策
 フレックスタイム導入
 モバイルオーダー&ペイ アクリル板の設置
 会食禁止 出張削減
 オフィスの換気と手洗いの徹底
 企画の厳選
 リモートワーク
 時差出勤
 グループウェアの導入
 濃厚接触者をつくらない工夫
 特になし
 残業の軽減
 デジタル化
 赤字部門の撤廃

Q13

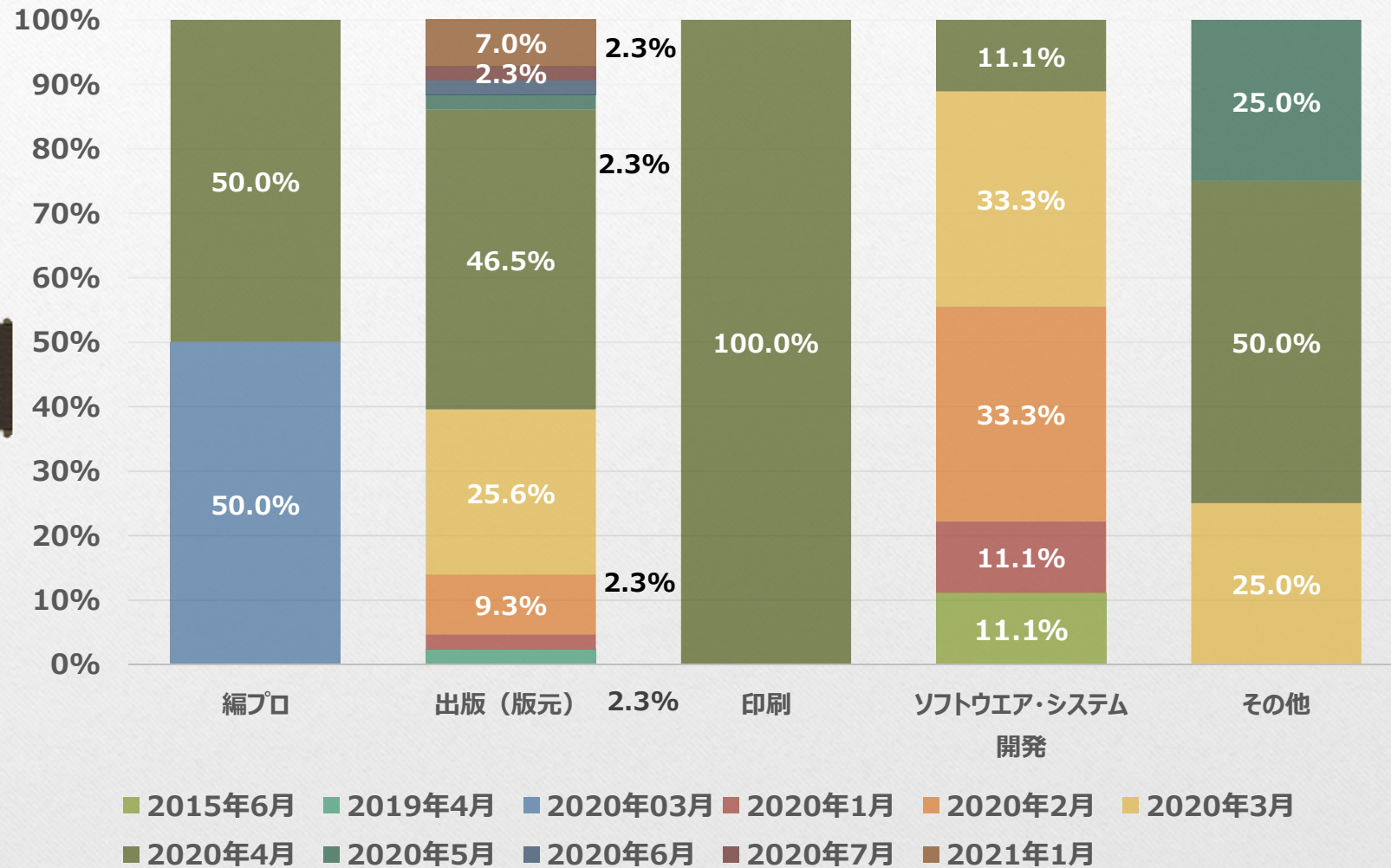
あなたは、コロナの拡大を防ぐために、在宅勤務、リモートワークを実施しましたか？



n=70

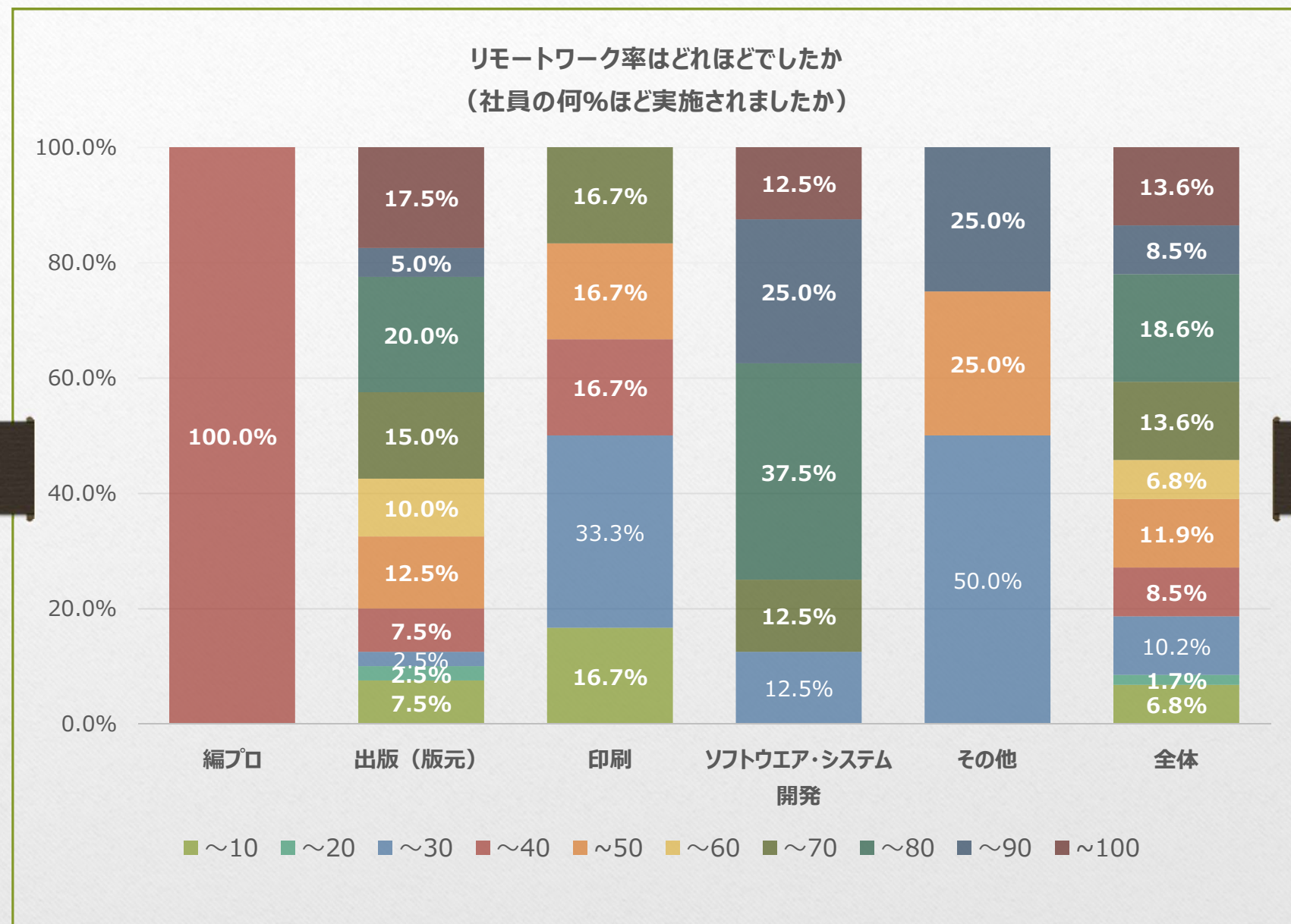
Q14

コロナの拡大を防ぐために、在宅勤務、リモートワークを
いつから実施されましたか？



n=70

Q15



n=70

Q16 リモートワークを実施してよかったと感じた点と困った点

リモートワークの良かった点では、「通勤がなくなる」ことをメリットに挙げた人が多かった。一方で、通勤時間がなくなったことで「運動不足になりがち」や「ストレス増加」をマイナス点に挙げた人がいた。また、総じて「情報共有の範囲が限定される」点と、「在宅勤務者と比べ出社している人の負荷増大」という不公平の払拭を課題に挙げた人もいた。デジタル化推進では、“たなぼた”で「デジタル化推進できた」と歓迎する一方で、「家庭内LAN接続問題」を挙げた人もいた。

■ 通勤

- ✓ コロナ感染リスク、通勤によるストレス、通勤コストの軽減
- ✓ 通勤時間を仕事にまわせたり、時間管理に余裕が生まれ、通勤時間を家事手伝いにまわせたなどのライフワークバランスの改善についての意見があった。

■ 集中

- ✓ 脱中断(オフィスでの雑談、不要不急の会議など)、電話等による業務での中断解消による集中

■ 発見

- ✓ 出勤しなくても良い業務が明確になった、在宅勤務に合わない業務があることがわかった

■ 距離

- ✓ 遠方いつでもコミュニケーション
- ✓ 打ち合わせ回数が増えた

Q16 リモートワークを実施してよかったと感じた点と困った点

■ デジタル化の推進

- ✓ もともと進めていたデジタル化が強力に推進できた
- ✓ 業務の見える化できた
- ✓ 情報共有（必然的にツールを駆使）が円滑になった

■ 多様性

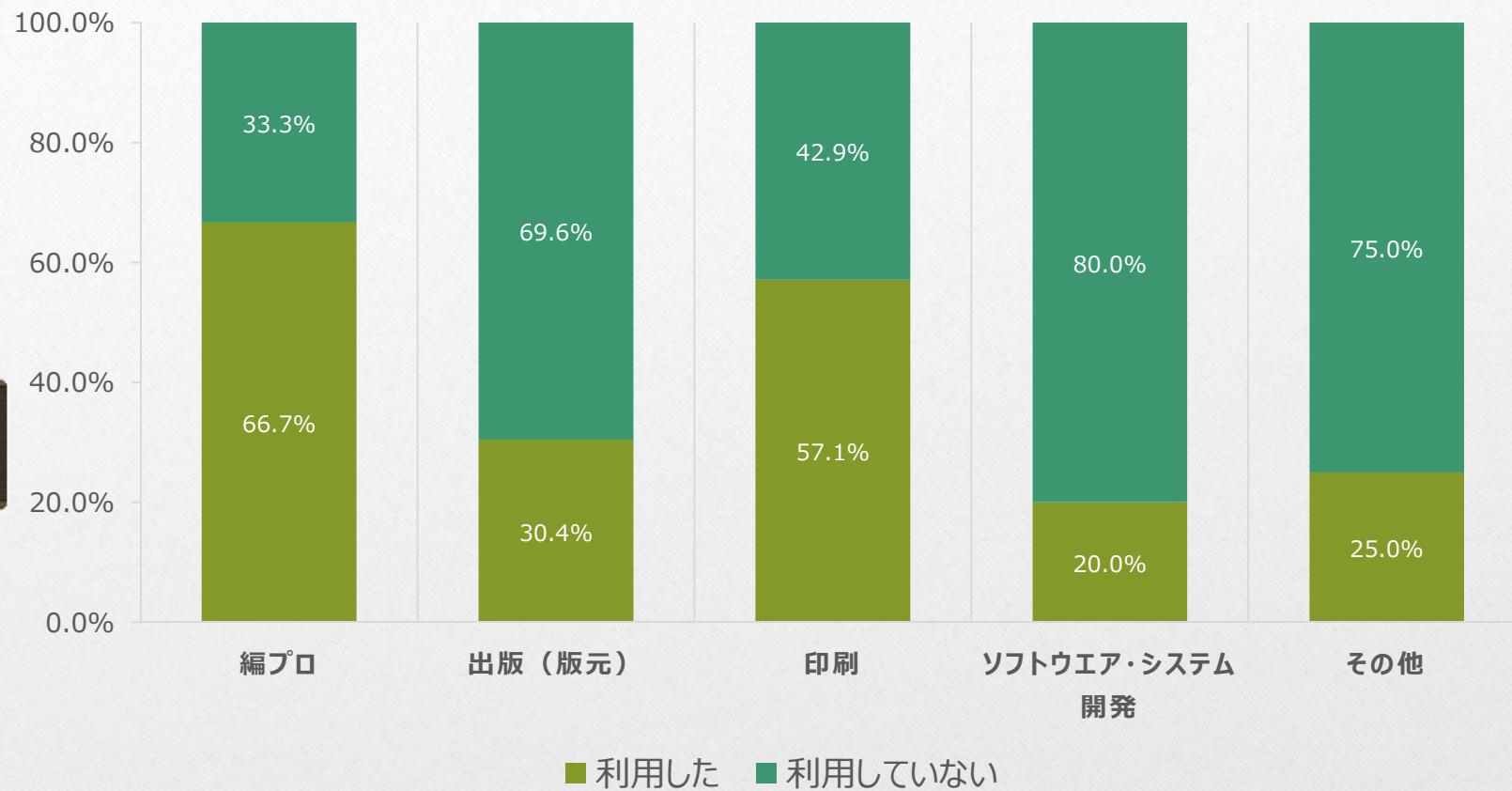
- ✓ 歓迎する社員とそうでない社員がいた
- ✓ 人によって成果の上げ方が違う
- ✓ 勤怠管理が難しい

■ マイナス面

- ✓ コミュニケーションがとりにくい、コミュニケーションツールに時間がかかる
- ✓ 在宅勤務者への連絡がスムーズに行えない、スタッフ間の連携が困難
- ✓ プリントが困難、紙での対応が必要な場合、郵送・スキャンの煩雑さ
- ✓ 業務フローや環境が在宅勤務に対応できていない
- ✓ クリエイティブな業務に不向き
- ✓ 気持ちの切り替えが難しい
- ✓ 孤独な作業になるので精神のバランスを保つのに苦労した
- ✓ 新人教育や指導が難しい

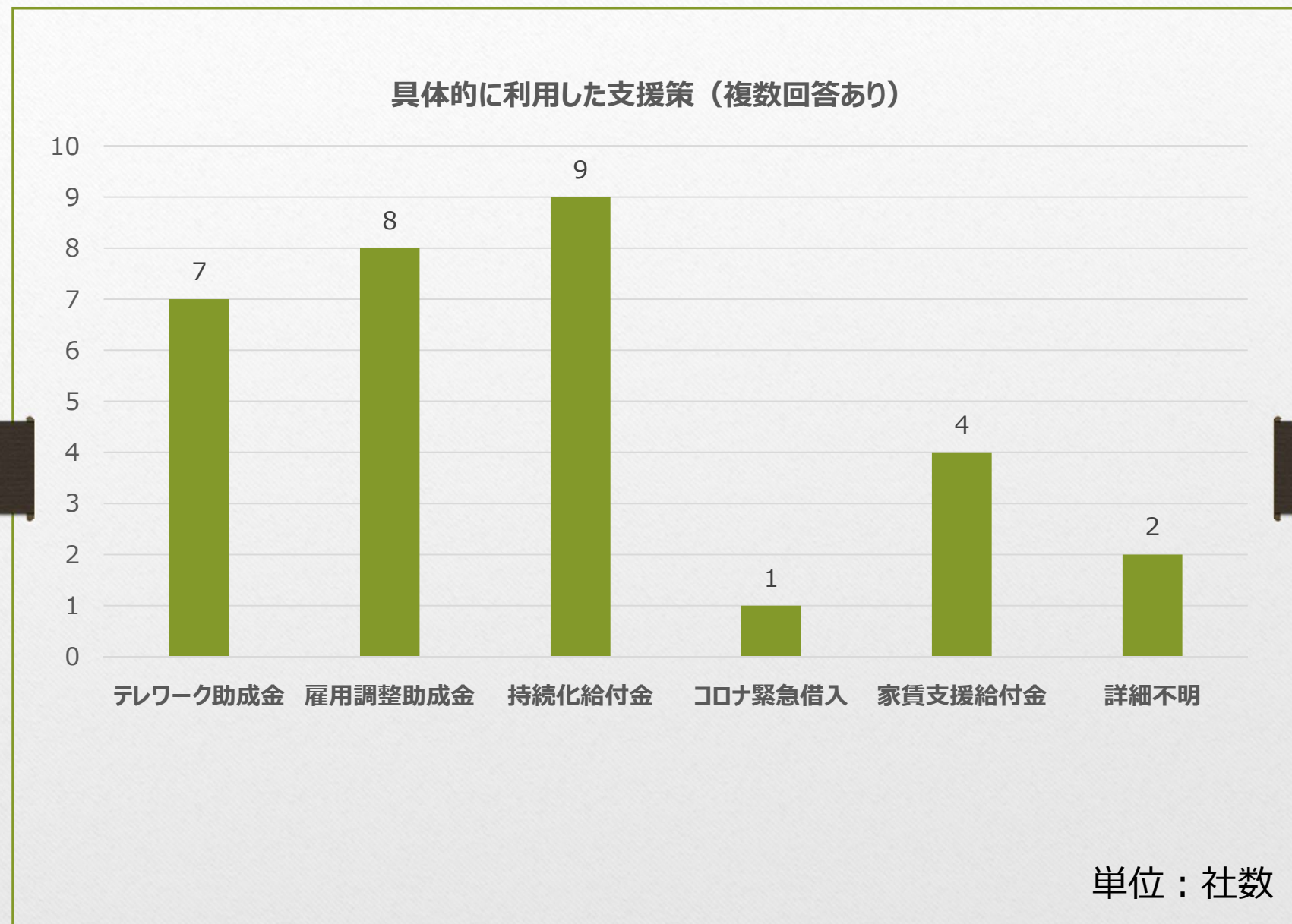
Q17

あなたの会社では、政府の支援は利用しましたか？



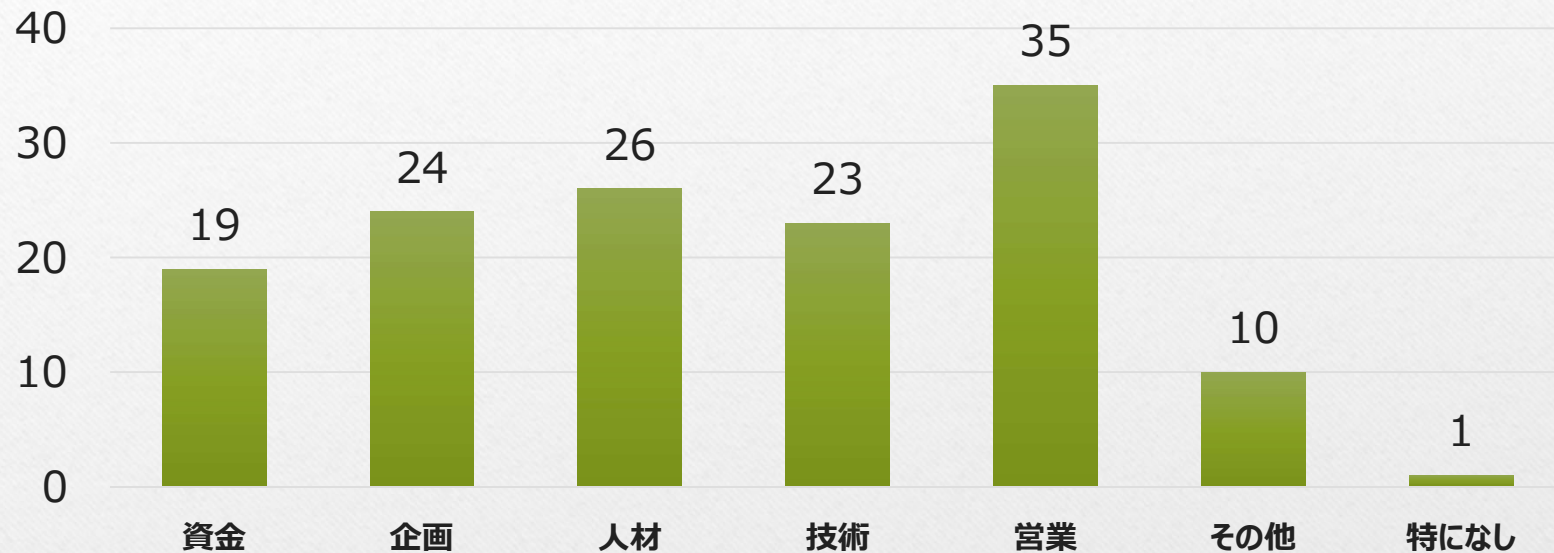
n=70

Q18 政府の支援を受けた方の具体的に利用した支援策



n=22

コロナ感染拡大により、あなたが業務上最も課題と思うことは
何ですか？（複数選択あり）

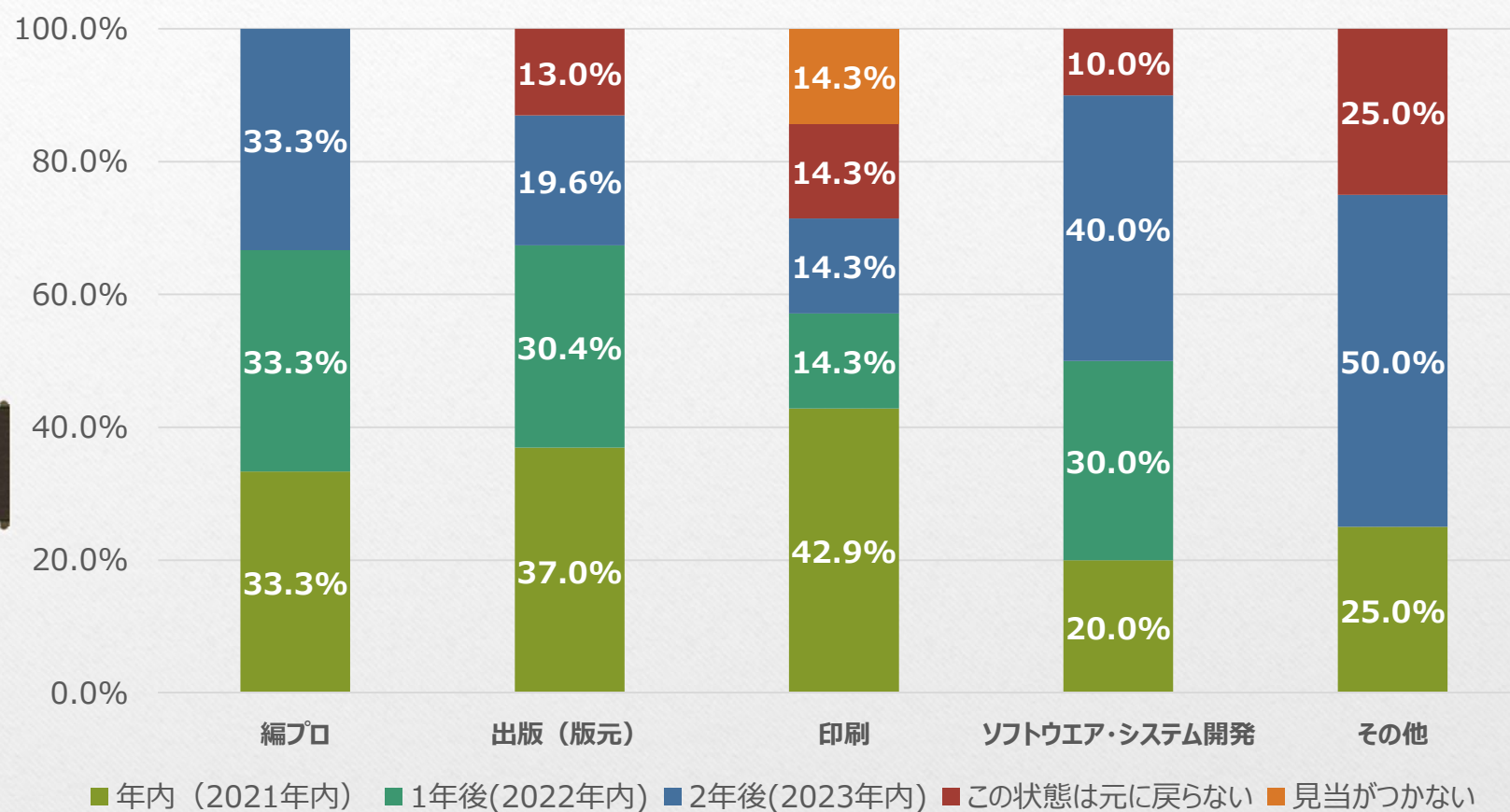


その他の意見

感染防止策	柔軟なデジタル環境
機材	承認プロセスのデジタル化
業界全体のデジタル導入（スリップ・FAXからの脱却）	新しい環境に適応しようとする意志と状況判断能力
経営者の意識改革	物を購入するという経済の循環が滞っている。
工場の社員感染による稼働停止	労務管理

Q20

今のコロナ感染による事業の影響は、いつ終息すると思われますか。



n=70

アンケート全体の考察（１）

- Q2の結果の通り、コロナ流行の影響は出版関連各社に大きな影響を与えており、Q3の結果を見る限りでは、主に売上の減少という形で表れている。また一部の会社では業務の停滞といった影響も見られており、ここでも出てきた問題意識が、Q4、Q5、Q7の各問に反映されていると考えられる。
- Q4では、本の制作に直接関わる会社の多くが、コロナの流行が部分的であれ、業務のデジタル化のきっかけになったと答えている。一方、ソフトウェア開発会社等(その他含む)が、コロナ以前よりデジタル化を進めていたことや、Q6の回答から鑑みると、デジタル化については社内である程度ITに明るい人材の確保やデジタル化に向けた環境作りが重要と考えられる。特に、Q7の回答の通り、総務業務やデータ共有・会議のオンライン化に向けた取り組みは、業務をデジタル化するに当たりもっとも良い効果を得られることが期待される。
- Q5のコンテンツのデジタル化については、半分近くがコロナ前から進行していたと答えたが、コロナをきっかけとしてデジタル化が進行した会社も、全体の４割近い。興味深いのは、コンテンツのデジタル化の進行時期に関わらず、デジタルコンテンツ関係の売上が増加したところと変わらなかったところの数が、大きくは変わらない。これはコンテンツをデジタル化したとしても、その後の展開策を慎重に練らないと売上向上につながらないことを示唆していると考えられる。
- Q6は、Q4とQ5においてデジタル化が阻害された要因として回答されたものだが、その半分以上が業務環境や企業文化によるものであり、経営層がコミットすべき複数の問題が複雑に絡み合っているように見受けられる。Q7の回答の通り、まずは総務業務やデータ共有、会議のデジタル・オンライン化の３テーマに絞って取り組むのが良いと考えられる。

アンケート全体の考察（２）

- Q8～Q11の売り上げについては、ソフトウェアが総じて影響が少ないことがわかる。数社へのヒアリングをしたところ、コロナの影響で売り上げが明らかに上がった会員会社も少なくなく、デジタル商材の需要が出版という枠組みを超えて大きかったことが、新ためて明らかになった。
- Q13～Q17のリモートワークについては、業務内容の相性の良さからソフトウェア関連での普及率の高さが明確になった。会員会社でもフロアを半分にする、分散オフィスにする、出勤しないことを原則とした地方採用（本社東京、地方支社なし）といった取り組みは珍しくないようである。
- Q18については、ソフトウェアの利用が低く、次に出版、編プロで、印刷業界の利用が、最も目立った。政府、自治体の支援については東京商工会議所や中小企業振興公社などまとまった情報も多く、アクセスしやすくなっていると考ええる。
- Q19ではコロナ禍の課題として営業をどのようにするかという回答が最も多く、対面、訪問ができない中、基本は営業であり、営業をどのように実施するかが、課題に取られていることが浮き彫りになった。なお営業を重視するのは印刷、出版業界であり、編集プロダクション関係やソフトウェア開発会社では、ほぼ全項目に回答が散らばり、偏りは多くない。